

平成 27 年度第 1 回  
新巖木高校  
設置準備委員会  
(資料)

平成 27 年 5 月 28 日  
佐賀県教育委員会

# 目次

	頁
資料 1	新高校設置準備委員会設置要領 . . . . . 1
資料 2	新巖木高校設置準備委員会委員構成 . . . . . 3
資料 3	新高校設置に向けた検討体制 . . . . . 4
資料 4	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)(概要版) . . . . . 5
資料 5	県立高校再編整備計画(唐津地区) . . . . . 8
資料 6	新巖木高校設置準備委員会検討スケジュール . . . . . 9
資料 7	めざす学校像 . . . . . 10

## 新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日  
佐賀県教育委員会教育長決定  
一部改正 平成17年4月 1日  
一部改正 平成18年7月12日  
一部改正 平成21年4月 1日  
一部改正 平成27年4月 1日

## (設置)

第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

## (所掌事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。

- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
- 二 新高校の施設・設備に関すること
- 三 新高校への円滑な移行に関すること
- 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

## (組織)

第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。

- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

## (会議)

第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。

- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

## (事務局)

第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

## (補足)

第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

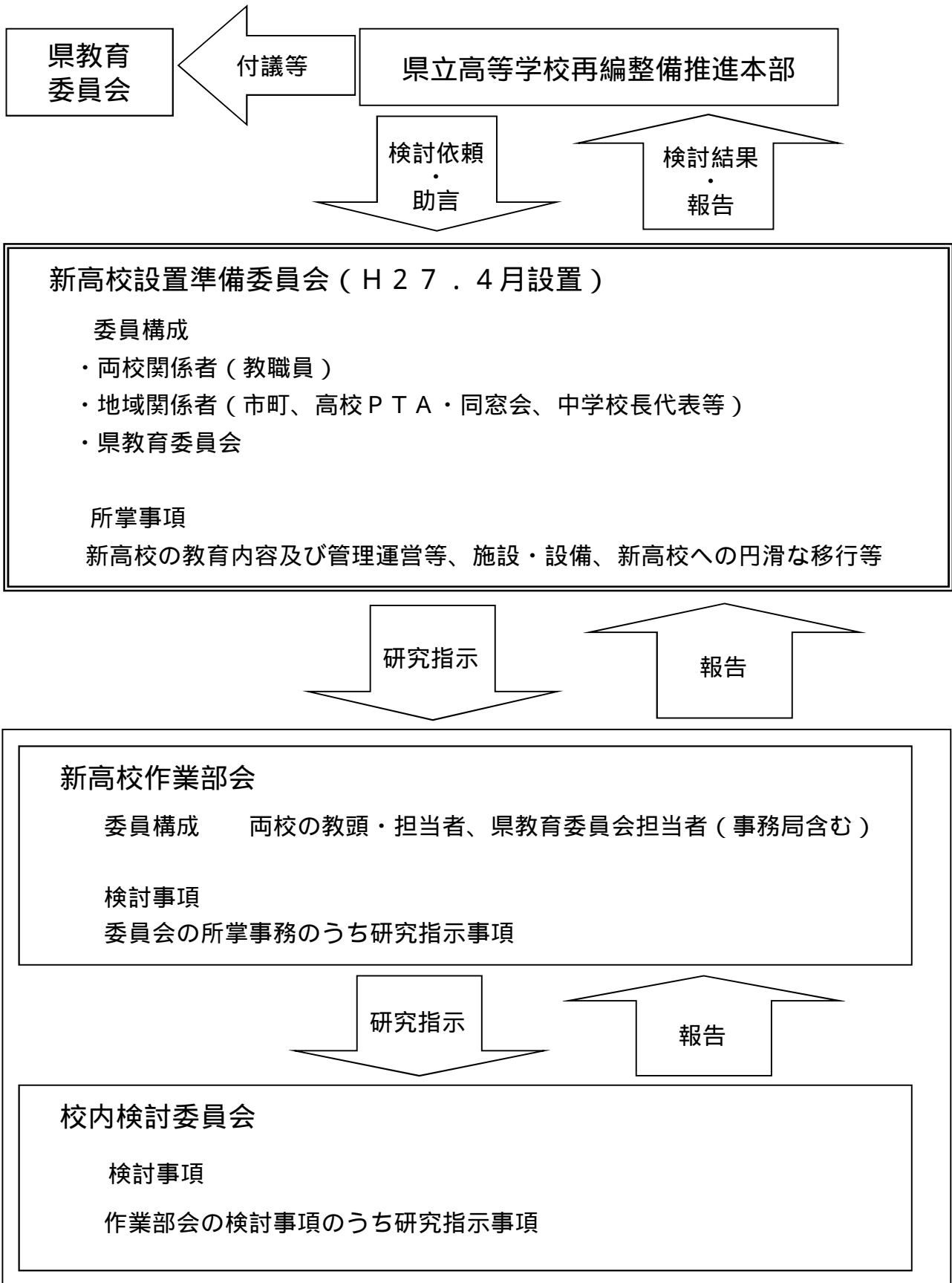
## 別表（第1条関係）

委員会名	再編等対象校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校

資料2 新巖木高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考	
1	巖木高等学校 校長	馬場 知之	委員長・学校関係者	
2	巖木高等学校 教頭	北村 敬	副委員長・学校関係者	
3	巖木高等学校 事務長	進藤 安恵	学校関係者	
4	唐津市教育長	稲葉 継雄	唐津市	市町関係者
5	唐津市 巖木市民センター長	天川 俊雄		
6	巖木高等学校 同窓会代表	米倉 憲一郎	地元関係者	
7	巖木高等学校 PTA代表	荒嶋 久美子		
8	唐津市立巖木中学校長	篠原 智文	中学校関係者	
9	副教育長（教育情報課長）	福田 孝義	県教委関係者	
10	教育政策課長	八谷 幸浩		
11	特別支援教育室長	馬場 浩輔		
12	教職員課長	福地 昌平		
13	学校教育課長	松尾 敏実		
14	保健体育室長	三上 智一		
15	教育支援課長	源五郎丸 靖		
16	県立高校再編整備推進室長	甲斐 照章		
17	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰		
事務局	巖木高等学校教諭	藤田 務		
	県立高校再編整備推進室 企画主幹	上赤 真澄		
	県立高校再編整備推進室 企画主査	高山 裕樹		

### 新高校設置に向けた検討体制



資料4 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）  
（概要版）

新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）（概要版）  
（計画期間：平成33年度まで）

佐賀県立高等学校生徒減少期対策審議会答申（H24.8月）  
「生徒減少期に対応した県立高等学校教育の充実・発展に資する対策について」

「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（新実施計画）」＜たたき台＞  
（H25.11月）

「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（新実施計画）（第1次）」（案）  
（H26.10月）

「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（新実施計画）（第1次）」  
（H26.12月）

新実施計画策定に当たっての基本的な考え

背景

- ・ 新たな生徒減少期
- ・ 社会経済情勢の変化

目標

- ・ 生徒が進路希望を実現できる教育環境の整備
- ・ 高等学校教育の質的充実

方向性

- ・ 長期的・全県の視野に立った高等学校の再編整備の推進
- ・ 高等学校の学科等の整備

新実施計画策定の方針

新実施計画については、次の区分により、策定することとする。

新実施計画 （第1次）	平成30年度に到来する新たな生徒減少期に向けて、早期に方針を決定し、準備に着手する必要がある県立高等学校の再編整備等
新実施計画 （第2次）	平成30年度に到来する新たな生徒減少期に向けて、今後更に調査や検証、協議等が必要な県立高等学校の再編整備等

県立高等学校再編整備の基本方針

1 学校規模

1学年160人～320人（4学級～8学級）とする。ただし、1学年120人（3学級）の学校については、柔軟に対応する。

2 再編の対象

次のいずれかに該当する場合は、再編の対象校として検討する。

- ・ 1学年120人（3学級）以下の高等学校で、学校規模に由来する課題により、必要な教育活動を維持することが困難であると見込まれる場合
- ・ 1学年120人（3学級）の高等学校で、定員を維持することが困難となることが見込まれる場合

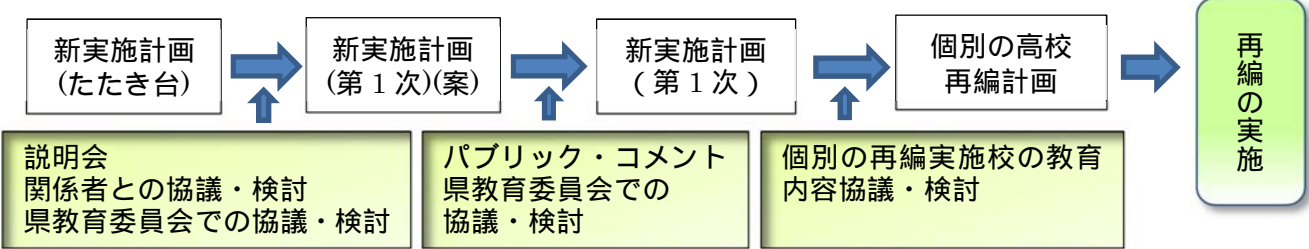
[ 1学年80人（2学級）の高等学校が存続する場合 ]

- ア 特色ある教育施策の実施等により、県全体の教育効果を高めることが特に期待される場合
- イ 地理的条件や交通事情により、生徒の教育に重大な支障を来すことが懸念される場合

## 再編整備の進め方

### 1 新実施計画（第1次）

新実施計画（第1次）については、個々の再編整備計画をもとに、再編対象ごとに設置準備委員会を設置し、再編実施後の高等学校における教育内容等について検討する。



### 2 新実施計画（第2次）

平成28年度を目途に策定する。

主な検討事項

- ・ 県全体の農業教育と佐賀農業高等学校の在り方に係る検討
- ・ 神埼地区の高等学校（神埼高等学校・神埼清明高等学校）の学校運営の在り方に係る検討
- ・ 県立高等学校の活性化（グローバル社会への対応、産業技術の高度化への対応（専攻科等の検討））
- ・ 通信制課程の移転及び昼間定時制の導入

## 具体的な再編整備計画

### 1 平成14年計画に掲げた再編整備計画

伊万里地区（平成31年度まで）

再編対象校	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
新高等学校の場所	伊万里農林高等学校若しくは伊万里商業高等学校又は校舎制* （校地については、地域の意見も聞きながら、引き続き検討する。）
募集定員	1学年200人（5学級規模）
学 科	現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。

なお、伊万里地区については、生徒数の減により、平成33年度にさらに募集定員を40人（1学級相当）減じる必要があると見込んでいる。

武雄・杵島地区（平成30年度まで）

再編対象校	白石高等学校、杵島商業高等学校
新高等学校の場所	当面、校舎制
募集定員	1学年200人（5学級規模）
学 科	現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。

佐賀農業高等学校は、本県の農業科において中心的な役割を担う学校と位置付けることから、現在の学科を維持できるよう、当面、1学年120人（3学級規模）を維持し、単独校とする。

なお、武雄・杵島地区のうち杵島地区については、生徒数の減により、平成32年度にさらに募集定員を40人（1学級相当）減じる必要があると見込んでいる。

### 2 新たな再編整備計画

唐津地区（平成30年度まで）

改編対象校	巖木高等学校
新高等学校の場所	現在の校地
募集定員	1学年80人（2学級規模） ・ 学区募集枠 40人 ・ 全県募集枠 40人
学 科	普通科
備 考	全県募集枠については、全日制高等学校で学ぶ意欲と能力のある、不登校経験や発達障害のある生徒及び高等学校中途退学者を対象とする。



### 鹿島・藤津地区（平成30年度まで）

再編対象校	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
新高等学校の場所	当面、校舎制
募集定員	1学年280人（7学級規模）
学 科	現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。

再編対象校	塩田工業高等学校、嬉野高等学校
新高等学校の場所	当面、校舎制
募集定員	1学年200人（5学級規模）
学 科	現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。

なお、鹿島・藤津地区については、生徒数の減により、平成31年度及び平成32年度に、さらに募集定員を各40人（1学級相当）減じる必要があると見込んでいる。

\* 校舎制：再編前の高等学校の校舎をそれぞれ活用し、複数の校舎を持つ1つの高等学校として再編する。

## 県立高等学校の活性化

### 1 基本的な考え方

今後の県立高等学校の質的充実を図るための視点

- (1) グローバル社会への対応
- (2) 産業技術の高度化への対応
- (3) 教育機会の更なる拡大

### 2 学科等整備の基本方向

- (1) 職業教育の中心的な役割を担う高等学校

産業技術の高度化への対応として、職業教育の中心的な役割を担う高等学校を位置付ける。

学 科	中心的な役割を担う高等学校
農業科	佐賀農業高等学校
工業科	佐賀工業高等学校
商業科	佐賀商業高等学校
家庭科	牛津高等学校

- (2) 生徒の実態に応じた教育機会の更なる拡大

不登校経験や発達障害のある生徒及び高等学校中途退学者に対する教育については、モデル校である太良高等学校の検証結果等も踏まえて、同様の取組を巖木高等学校へ展開する。

なお、グローバル化への対応や高度技能者の育成に係る専攻科等についての検討等については、引き続き検討を行い、新実施計画（第2次）で取り組むこととする。

## 県立高等学校の通学区域

全日制課程の普通科について設定している4学区（東部・中部・北部・西部）を、学校の配置状況、生徒の通学状況、地域間のバランスを総合的に勘案して、平成28年度から、当面、東部学区と中部学区を合わせた学区（新東部学区）と北部学区と西部学区を合わせた学区（新西部学区）の2学区とする。

なお、さらに通学区域を拡大し、全県一区とすることについては、2学区とした後の通学状況等を検証しながら、引き続き検討していくこととする。

## 各高等学校の志願動向と募集定員

各高等学校の募集定員については、基本的に各学区・地区内の中学校卒業見込者数の動向に応じて決定するが、生徒の志願動向を重視し、中学校卒業見込者数の減少による各学区・地区の募集定員の減がない場合でも、2年連続して一般選抜試験の学校別の志願倍率が1倍に満たなかった高等学校については、募集定員の減を検討する。

## 唐津地区の再編整備計画

唐津地区の生徒減少に合わせ、平成 30 年度までに、県立高等学校の改編を実施する。

改編対象校	巖木高等学校
新高等学校の場所	現在の校地
募集定員	1 学年 80 人 ( 2 学級規模 ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学区募集枠 40 人</li> <li>・ 全県募集枠 40 人</li> </ul>
学 科	普通科
備 考	全県募集枠については、全日制高等学校で学ぶ意欲と能力のある、不登校経験や発達障害のある生徒及び高等学校中途退学者を対象とする。

「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 ( 第 1 次 )」より抜粋 p8

## 新巖木高校設置準備委員会検討スケジュール（案）

回	時期	主な検討項目
第 1 回	H27 年 5 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員委嘱</li> <li>・ 新実施計画の概要</li> <li>・ 唐津地区の再編計画について</li> <li>・ 新高校設置に向けての検討事項及び検討スケジュール</li> <li>・ めざす学校像（現状を踏まえた意見交換） など</li> </ul>
第 2 回	H27 年 7 月下旬 ～ 8 月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ めざす学校像（校訓・教育方針・教育目標等）</li> <li>・ 新高校の教育内容（特色ある教育、教育課程・校時）</li> </ul>
第 3 回	H27 年 10 月上旬 ～ 10 月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連携の検討（体験学習、通学対策、小高連携等）</li> <li>・ 教育相談・生徒指導体制</li> </ul>
第 4 回	H27 12 月下旬 ～ H28 年 1 月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設・設備等に係る検討</li> <li>・ 教職員配置</li> <li>・ 選抜方法の検討</li> </ul>
第 5 回	H28 年 3 月中旬 ～ 3 月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動</li> <li>・ 校務分掌</li> <li>・ 各種委員会 など</li> </ul>
第 6 回 ～	H28 年 4 月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育内容に係る検討 （平成 27 年度からの継続検討）</li> <li>・ 新高校の校名、校章、校歌、制服制定に係る検討</li> </ul>
備考	H29 年 2 月	・ 2 月議会（条例改正案）
	H29 年 3 月	・ 新高校再編計画
	H29 年 4 月～	・ 広報活動、施設・設備の整備
	<b>H30 年 4 月</b>	<b>開校</b>

## 1 現在の状況

## 学校の概要 (H26学校要覧による)



## 太良高等学校

## ○校訓 「自律」

自律の精神を培い、社会の変化に対応できる心豊かなたくましい人間の育成を目指す。

## ○教育目標

校訓「自律」の精神を培い、知・徳・体のバランスを高め、社会に貢献できる心身共に健全な清々しい人間を育成する。

キャッチフレーズ:「HOT School」(H=hope,O=only one,T=try)  
生徒一人ひとりが希望を持ち、かけがえのない自分を磨き、未来に向けて努力する学校

○学科・定員 普通科(全県枠)40名  
普通科(西部学区枠)40人

## ○特色

- ・ 単位制(普通科目の殆どを1,2年次に履修。適性・進路に応じた選択科目)
- ・ ICT教育(電子黒板、DS教室、eラーニング)
- ・ 体験的な学習(キャリア教育、体験学習、インターンシップ、手話・郷土学習、ボランティア等)
- ・ 生徒支援(ユニバーサルデザイン、相談支援、学習支援リメディアル教育(学び直し))

## ○課題

- ・ 生徒の自己肯定感を高めながら、自ら学ぶ姿勢を獲得させ、豊かな心を育み、卒業後のライフスキルを習得させるキャリア教育の充実・発展が必要。



## 巖木高等学校

○校訓 校訓 若杉の訓(おしえ)  
節義、理想、生气、忍耐、敬愛、奉仕

「若杉のように理想という大空に向かって、ともに手を取り合い、大きくまっすぐ育ち、常に若さと情熱を失わず、自らを誇らず、どんな苦しみをも乗り越え、心豊かな人材であれ」

## ○教育目標

- 『社会に貢献できる心豊かな人材の育成』  
【スローガン】“夢は叶う、夢が叶う”  
【目標達成のための4本柱】
- ・ 「あいさつ」
  - ・ 「ボランティア活動」
  - ・ 「部活動の活性化」
  - ・ 「学力向上」

○学科・定員 普通科120名

## ○特色

- ・ 朝のあいさつ運動
- ・ 部活動の活躍(アーチェリー部)
- ・ 小高連携(箒木小)
- ・ 巖木駅清掃ボランティア



## ○課題

- ・ ボランティア活動を学校全体の取り組みとして展開するための工夫が必要。
- ・ ICT機器を活用した「学び直しの時間」の設定について検討が必要。
- ・ 部活動の統廃合を防ぐために、部活動のメリットを前面に出すなど工夫が必要。

## 進路状況

(「卒業後の状況調査H27.3卒業生(速報値)」による。数値は人数。)



## 太良高等学校

四年制大学7(うち国公立0)  
短期大学1  
専修学校等18  
就職29 その他3 卒業生数58

## &lt;主な進学先&gt;

(私立)西九州大学、九州産業大学、駒澤大学、保健医療経営大学  
(短期大学)西九州短大、佐賀女子短大、九州龍谷短大  
(専修学校等)佐賀調理製菓専門学校、佐賀コンピュータ専門学校、西鉄国際ビジネスカレッジ、長崎福祉専門学校、久留米工業技術専門学校、フチガミ医療福祉専門学校

<主な就職先> (株)クリエイト、(株)馬渡商会、社会福祉法人善光会、山崎製パン、(株)九州警備、佐賀酒類販売(株)、イオン九州、太良町森林組合、(有)蟹御殿、祐徳稲荷神社、(株)和多屋別荘、自衛官候補生



## 巖木高等学校

四年制大学5(うち国公立0)  
短期大学9  
専修学校等29  
就職55 その他6 卒業生数104

## &lt;主な進学先&gt;

(私立)西九州大学、日本文理大学、九州情報大学、長崎国際大学、西九州短大、佐賀女子短大、福岡こども短大、精華女子短大、香蘭女子短大  
(専修学校等)唐津看護専門学校、佐賀市医師会立看護専門学校、ILPお茶の水医療福祉専門学校、福岡医療秘書福祉専門学校、福岡スクールオブミュージック・ダンス専門学校、中村調理製菓専門学校、佐賀コンピュータ専門学校、佐賀歯科衛生専門学校

<主な就職先>TBソーテック九州株式会社、石井食品株式会社、成村建設株式会社、三栄興業株式会社、昭和自動車、唐津ロイヤルホテル、リバティ、吉村商店、ヤマフ、まいづる百貨店、長生会(エバーグリーン)、ミナノ精工株式会社、JAフーズさが、株式会社ヨコオ、東和コーポレーション、マルキョウ、マツダ株式会社、山崎製パン、自衛隊

部 活 動 (「H26学校要覧」による。数値は部員数。)



太良高等学校

- <体育部> 野球(13)  
柔道(5)  
サッカー(18)  
バレーボール(8)  
ソフトテニス(12)  
卓球(21)  
弓道(25)



- <文化部> 生物科学(13)  
華道(18)  
パソコン(14)  
JRC(18)  
吹奏楽(7)  
総合芸術(14)



巖木高等学校

- <体育部> 野球(21)  
弓道(13)  
ソフトボール(9)  
女子バレーボール(10)  
男子バスケットボール(17)  
女子バスケットボール(8)  
男子ソフトテニス(11)  
女子ソフトテニス(8)  
陸上(8)  
アーチェリー(11)  
サッカー(16)



- <文化部> 音楽(21)  
茶道・華道(12)  
書道(16)  
放送(3)  
ボランティア(16)  
美術(7)  
食物・手芸(16)

主 な 行 事



太良高等学校

- 【4月】入学式  
県下一斉学力診断テスト(1年)  
1日研修(1年:山茶花高原、2年:多良岳、3年:学校・企業訪問)
- 【6月】県下一斉模試(2・3年)  
全商簿記実務検定  
全商ビジネス文書実務検定
- 【7月】全商ビジネスコミュニケーション検定
- 【8月】エコキャップ全校生徒作成  
県下一斉模試(全学年)
- 【9月】豊峯祭(文化祭・体育祭)  
就職試験開始  
前期終業式
- 【10月】後期始業式  
芸術鑑賞会
- 【11月】県下一斉模試(3年)
- 【12月】カルタ会
- 【1月】県下一斉模試(1・2年)  
修学旅行
- 【3月】卒業式



巖木高等学校

- 【4月】入学式  
県下一斉学力診断テスト(1年)  
1年生宿泊研修
- 【5月】開校記念行事
- 【6月】県下一斉就職模試(2・3年)
- 【7月】進路フェスタ(3年)  
進路ガイダンス(3年)
- 【9月】体育祭  
就職試験開始
- 【10月】勤労体験学習
- 【11月】文化フェスタ  
芸術鑑賞会
- 【1月】修学旅行
- 【2月】漢字検定  
清掃ボランティア(2年)
- 【3月】進路ガイダンス(1・2年)  
卒業式



【参考：太良高校の特色ある取り組み（H23年開校時）】

< 募集 >

募集定員	西部学区枠（全県募集枠以外）：40人 全県募集枠：40人 <sup>(注)</sup> 10月入学：10人
<p>(注) 全県募集枠の対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校において不登校経験等のある者</li> <li>・ 発達障害のある者</li> <li>・ 高等学校を中途退学した者</li> </ul>	

< 特色ある教育 >

(1) 普通科単位制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2学期制（半期認定科目の設定、後期転入学試験（10月）の実施）</li> <li>・ 普通科目のほとんどを1,2年次に履修</li> <li>・ 適性・進路に応じた多様な選択科目を設定（ビジネス系、生活・福祉系、情報技術系、芸術・体育系、体験的な活動、学び直し）</li> <li>・ 多様な単位認定（技能審査、ボランティア・就業体験活動、スポーツ文化活動、高卒程度認定試験など）</li> </ul>
(2) ICT教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子黒板（IWB）の設置（全教室に設置）</li> <li>・ DS教室（ニンテンドーDS利用によるドリル問題等）</li> <li>・ eラーニング（PC、スマホ、タブレット）を利用した自主学习システム</li> </ul>
(3) 体験的な学習、キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験学習（農業、漁業、林業、福祉、食品加工、園芸等の事業所で週3時間の体験）、インターンシップ</li> <li>・ 栽培体験（校内で農作物を栽培し、収穫、調理まで行い、食と農のつながりや、自らの食生活について学ぶ）</li> <li>・ 手話、郷土学習等の選択科目の設定</li> <li>・ ボランティア</li> </ul>
(4) 生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユニバーサルデザイン（遮光カーテン、黒板周辺の掲示物なし、机・イスの脚にゴム、整理整頓と統一感）</li> <li>・ 相談支援（必要に応じた教育相談室「ほっとるーむ」、学習支援ルームの活用）</li> <li>・ 学習支援（少人数指導、リメディアル教育（学び直し））</li> </ul>
(5) 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域教育連携連絡協議会の設置（学校運営への地元参加）</li> <li>・ 地域連携支援員の配置</li> <li>・ 学校の教育活動への地元の協力、地域人材の活用</li> </ul>

## 2 新高校のめざす学校像

- ・ 教育目標について
- ・ 学校の特色づくりについて
- ・ 育成したい人材について
- ・ 地域との連携について
- ・ その他